

同時資料提供

大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

＜会期変更のお知らせ＞
大阪市立自然史博物館 第50回特別展
「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」
を開催します



大阪市立自然史博物館では、令和2年6月9日（火）から8月30日（日）まで、特別展「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」を開催します。



この特別展は、当初令和2年3月1日から5月31日までの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、開催を見合わせていました。今回、大阪市立自然史博物館の再開館に伴い、感染防止策を講じた上で、会期を変更して改めて開催することになりました。展示物に若干の変更はありますが、内容は大きく変わりません。

また、当初の会期を記したチケット、招待状は、そのままご使用頂けます。

当初予定していたギャラリートーク、子どもワークショップ、講演会などのイベントはすべて中止します。ギャラリートークに関しては、動画配信サイトにて公開しておりますので、ご参照ください。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLfPtKyMkXjTfWJ64jDat7kmQ824HKXuCd>

※開催にあたっての新型コロナウイルス感染症防止対策については、大阪市立自然史博物館のホームページ（5月16日発表内容）をご覧ください。また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況次第では、会期中で臨時休館することがありますので、ご了承ください。



近年、SDG'Sや生物多様性国家戦略といった言葉とともに、生物多様性の保全の必要性が知られるようになってきました。そこで、クローズアップされているのが、外来生物問題です。アマミノクロウサギやヤンバルクイナを絶滅させないために、マングースを駆除するというニュースを見たことがある方もいるでしょう。

外来生物は、今では私たちの身の回りのあちこちにいます。それをすべて駆除するのは現実的ではありませんし、身の回りの生態系自体を破壊してしまいかねません。一方で、駆除は可哀想と放置するのも責任のある態度とは言えません。外来生物にどう対応し、付き合っていくか。生物多様性の保全という立場から、地域の自然をどのように未来に残していくか。私たちは考えなくてはなりません。そのためには、まず外来生物についての正確な知識と現状の把握が必要です。

大阪府周辺にはどのような外来生物がいるのか、私たちが生活する身近な場所を中心に、市民の皆さんと一緒に調査した成果についても展示します。

この特別展では、多くの方がきちんと外来生物問題を考えられるようになることを目指して、外来生物問題についての基礎知識と、大阪や日本における外来生物の現状を紹介します。

I. 開催概要

1. 名 称 特別展「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」
2. 主 催 大阪市立自然史博物館
3. 会 期 令和2年6月9日（火）～8月30日（日）
※開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）
4. 休館日 月曜日（ただし8月10日は開館）
5. 会 場 大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23
TEL：06-6697-6221 FAX：06-6697-6225
HP：<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m
6. 観覧料 大人500円、高校生・大学生 300円
期間内特別展フリーパス 大人1000円、高大生600円
※本館（常設展）とのセット券は、大人700円、高大生400円。
※中学生以下、障がい者手帳など持参者（介護者1名を含む）、大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）。30人以上の団体割引あり。
※本館（常設展）、長居植物園への入場は別途料金が必要です（セット券を除く）。
7. 後 援 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会

○取材をご希望の場合は、取材申込書にてファックスでお申込みください。

（プレス内覧会は実施しません。取材は開幕後随時受け付けております。）

○広報用画像、読者・視聴者プレゼント用の招待券をご用意しています。

広報用画像申込書、招待券申込書もファックスでお申込みください。

II. 展示構成

<外来生物調査プロジェクトProject A (Alien/エイリアン) の成果発表>

大阪市立自然史博物館では、2015年から2019年まで、市民参加型の外来生物調査として大阪府を中心にさまざまな外来生物の分布調査を行いました。その成果である分布図を中心に、アメリカオニアザミ、アカハネオンブバッタ、クビアカツヤカミキリ、スクミリングガイ（ジャンボタニシ）、カダヤシ、ドジョウ外来系統、コブハクチョウ、ヌートリアなど、大阪府周辺の外来生物を紹介します。

<お前もかーい！外来生物>

子どもの頃から、身の回りに普通にいて、てっきり元々日本にいる生き物と思っていたのに、実は外来生物、ってことはよくあります。ザリガニ、ダンゴムシ、タンポポ、ドジョウなど、そんな意外な外来生物を紹介します。

<河川やため池などの外来生物>

さまざまな環境の中でも、河川やため池などの淡水環境は、外来生物の影響を強く受けています。ブラックバスやブルーギルといった外来魚、カミツキガメなどのペット由来のカメ、アクアリウムなどから放された水草など。外来生物だらけになってしまった淡水環境を紹介します。

<島の外来生物>

淡水環境とならんで、島は外来生物の影響を強く受けています。小笠原諸島のヤギやグリーンアノール、奄美大島や沖縄島のマングース、石垣島のインドクジャクなど。日本各地の島で起きている外来生物問題を紹介します。

<国内外来生物>

外来生物は、外国から日本に持ち込まれたものだけでなく、日本の他の地域から持ち込まれたものもあります。同じ種類がいる場所に、別の地域の遺伝的に異なるものを放すと、遺伝的に混じってしまい生き物の地域性が失われるという見えない外来生物問題を紹介します。

<日本発の外来生物>

日本に持ち込まれた外来生物だけではなく、日本から海外に運ばれて外来生物問題を引き起こしている生き物もいます。ワカメ、クズなどそんな日本発の外来生物を紹介します。

<外来生物との付き合い方>

日本のトキは絶滅しましたが、中国のトキを日本にもってきて繁殖させて放されています。トキの他にも、もともとの生息地では絶滅し、別の場所に持ち込まれて生き残っている希少生物がいます。このような希少生物は、外来生物なのでしょうか？トキをはじめとした希少生物の標本を前に考えます。

ネコは、室内で飼っている間は可愛いペットですが、野外では強力な捕食者であり深刻な外来生物問題を引き起こします。小笠原諸島や奄美大島では、ノネコから島の希少種を守るための活動が行われています。世界で問題になっているノネコ問題を紹介します。

<生きた外来生物いろいろ>

標本や画像だけではなく、外来の淡水魚、水草など、生きた外来生物も展示します。

ほか

Ⅲ. 主な展示および広報用資料写真・画像（掲載の画像は広報目的でのみご利用いただけます）



①<アライグマ>

大阪府では2000年頃から見られるようになりました。あっという間に大阪府の山手全域に拡がり、近年は大阪市内でも見つかっています。



②<カダヤシ>

北米原産の外来魚で、1916年頃、ボウフラ駆除のために日本に持ち込まれました。メダカ類とよく間違われますが、メダカ類などの在来生物への悪影響が特に心配されており、「特定外来生物」に指定されています。大阪府では1970年代後半から記録があり、現在では府中央部の広い範囲で定着しています。



③<アカハネオンブバッタ>

在来のオンブバッタとそっくりですが、後ばねは濃い赤色です。2008年に大阪の沿岸部で見つかりましたが、今では近畿地方の平野部に広く分布しています。



④<アメリカオニアザミ>

都市部で増加している外来のアザミで、大きいものは2mにもなります。植え込みの中や道路脇でよく見かけます。鋭い刺を全身にあるので触ると痛いし、引き抜くのも大変です。



⑤<セイヨウタンポポ>

都市部で見かけるタンポポは、元々日本にあったものは少なく、セイヨウタンポポかアカミタンポポといった外来種、もしくはそれらと在来種のタンポポの雑種が多いようです。



⑥<ヤナギバルイラソウ>

さわやかで美しい花をつけることから、花壇で植えられているのをよく見かけます。ところがそれだけにとどまらず、沖縄、四国・九州南部、そして東京、名古屋、大阪など都市部ではどんどん自分で分布を広げています。今後、要注意の外来種となるかもしれません。



⑦



⑧

⑦<スクミリンゴガイの卵塊>

⑧<スクミリンゴガイ>

南アメリカ原産の淡水性の巻き貝です。水面から出た草の茎などにピンク色の卵を産み付けます。大阪府でも水田を中心に分布が広がっています。



⑨<ガーのレプリカ>

大阪府池田市の池で捕獲されたガー（レピソステウス属）のレプリカです(全長 70cm)。ガーの仲間をはじめ、ペットが遺棄されたものと思われる外来生物が、大阪府内でも多数見つかっています。特別展では、大阪府で捕獲されたアリゲーターガーの標本も展示される予定です。

<クニマス> ※京都大学総合博物館所蔵

絶滅したと思われていましたが、10年ほど前に再発見された魚です。もともとの生息地であった 秋田県田沢湖では絶滅し、山梨県西湖などの移植先でのみ生き残っていることが分かりました。西湖のクニマスは、非常に希少な生物であると同時に、人が持ち込んだ外来生物なのです。



⑩<チャネルキャットフィッシュ>

「アメリカナマズ」の名でも知られる北アメリカ原産の魚で、特定外来生物に指定されています。持ち込まれた先々で魚などを食い荒らし、在来生態系や漁業に被害をもたらしています。大阪では、今後、淀川で急増すると予想されています。



⑪<ナイルパーチ>

※滋賀県立琵琶湖博物館所蔵

ナイルパーチは、アフリカの熱帯域に生息するアカメに似た魚で、大きいもので2mにもなります。アフリカのヴィクトリア湖に導入され爆発的に増加し、多数の固有種を絶滅させました。



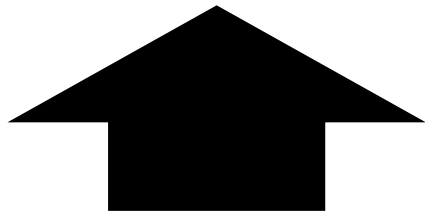
⑫<グッピー>

南アメリカ原産の魚で、多くの飼育品種が日本国内で流通しています。寒いところが苦手な魚ですが、大阪府でも一部の場所で定着しています。大阪市の長居植物園で採集された生きたグッピーを水槽で展示する予定です。



⑬<チュウゴクモクズガニ（上海蟹）>

高級食材の「上海蟹」として知られる中国原産のチュウゴクモクズガニは、アメリカやヨーロッパの河川に侵入しています。巣穴を掘って堤防を弱らせたり、餌が競合する在来の水生生物を減少させたりする被害があり、世界の侵略的外来種ワースト100に挙げられています。日本では定着していませんが、世界的な被害や在来のモクズガニと交配する可能性などを踏まえ、特定外来生物に指定されています。食材としては生きたまま輸入されるため、国内の流通業者は外来生物法に基づく飼養許可が必要です。



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館

総務課 広報 宛

TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23

「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」
取材申請・招待券 申込書

会期中、会場内における取材を希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、原則、取材の3日前までにFAXにてお送りください。なお撮影時間につきましては、会場の混雑状況などにより、事前に調整させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

また、貴媒体内での読者・視聴者プレゼントに限り、特別展の招待券を10組20名様分、ご提供させていただきます。 なお、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、CD-ROM、DVD-ROMなど）お送りいただき、それと引き換えに招待券をお送りさせていただいております。

貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
取材日時	令和2年 月 日（ ） ： ～ ：
人数（カメラ含む）	
ご住所	〒
ご連絡先	電話： FAX： メール：
掲載記事・放送番組名	
掲載日（発行日） 放送日時	
招待券	希望する ・ 希望しない



F A X . 0 6 - 6 6 9 7 - 6 2 2 5

<FAX送信>

送信先：大阪市立自然史博物館
総務課 広報 宛
TEL.06-6697-6222 FAX.06-6697-6225
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23

「知るからはじめる外来生物 ～未来へつなぐ地域の自然～」
広 報 用 画 像 申 込 書

- ・ご希望の画像に○印をつけ、下記にご記入のうえ、ご返信ください。
- ・画像使用は本展のご紹介のみとさせていただきます。使用後は、データを破棄してください。（平成30年10月21日(日)まで使用可）
- ・掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で総務課広報宛までFAXまたはメールをお送りください。また、掲載媒体を1部、総務課宛にお送り下さい。

No.	画像名	No.	画像名
1	アライグマ	2	カダヤシ
3	アカハネオンブバッタ	4	アメリカオニアザミ
5	セイヨウタンポポ	6	ヤナギバルイラソウ
7	スクミリンゴガイの卵塊	8	スクミリンゴガイ
9	ガーのレプリカ	10	チャネルキャットフィッシュ
11	ナイルパーチ	12	グッピー
13	チュウゴクモクズガニ（上海蟹）	14	ヨシススキ
15	外来生物はどうやって入ってくるの	16	チラシ 表面
17	チラシ 裏面		

貴社名・媒体名	
掲載・放送予定日	
所属部署／ご担当者名	
ご住所	〒
連絡先	電話： メール： F A X :